



○日本木管コンクール
ボランティアスタッフ

土肥栄子さん

わたしは木管コンクールで24年間ボランティア活動をしてきました。

コスミックホールは、音楽専用ホールで細やかな響きを美しく伝え、微妙な音までとらえることができ、そして今では年を追うごとに、よりよい音に熟しています。

コンクールは、しようと思えばどこでもできると思いますが、なぜこのホールで木管のコンクールが行われているのか。小さな音も明確に捉え、演奏しやすい会場であるから長く続いたのでしょう。

これは加東市の誇りです。コスミックホールにある平山郁夫画伯の貴重な緞帳は、当時何回も足を運び、ホールよさを認識され、やっと製作の許可をもらえたと聞いています。

これまで大勢の有名なア

ティストたちが来館されていますが、忘れられないこととして、中丸三千絵さんが「非常に歌いやすく、最高のホールです」と絶賛されたこと、そして、そのコメントが新聞に掲載されたことがあります。

わたしは去年、ホールのよさを、身をもって体験しました。「アナと雪の女王」の映画がホールで上映され、「歌と音楽が、なんてきれいな映画だろう！」と感激したのです。その時はそう思っただけでした。

それから後に、孫と映画館で見たのですが、音はホールで聞いたものとは程遠いものでした。その時「あっ！あれはホールがいいからや！」と気がついたのです。映画館も非常によいスピーカーが取り付けてあるらしいですが、やはりコスミックホールはすばらしいと感じ入りました。

ホールは借地であり、修理費も多額の費用が要るとのことですが、そもそもメンテナンスが全くされていない。何もしないで悪くなるのは当然です。その状況で『取り壊し』では、納得のしようもありません。

加東市は、兵庫教育大学、

教育研修所、生涯教育センターと非常に恵まれた環境にあります。そこにコスミックホールを加東市で一番の文化ホールとして、ぜひ留めてください。ほかにも取り壊しが予定されている施設は色々あります。改修されたばかりの東条公民館でも、仕方がないことと妥協しなければなりません。それは、再び建てようとしたら、建てられる建物だからです。しかし、ホールというものは、建て直しができません。

神社で手を合わせ、安穩を祈る時のような無垢の安らぎ。そんな気持ちになれる場所がなくなることはどんなに辛く、悲しく、寂しいことでしょうか。土地の買収に尽力を賜り、修理して、ぜひ残してください。きっと人の心が通うまちなることでしょう。



○青年代表

大橋 翔さん

地元でよさこいと民謡舞踊の教室に通い、加東市ですつと育ってきました。小中学校へ指導に行かせてもらうこともあったりして、子ども達との関わりもあります。また俗にいう古い趣味なので、お年を召した方とも交流がたくさんある立場です。

これから僕は結婚して子どもが出来て、子育てに入る立場で、これから納税をしていく立場でもあり、またお年を召した方と一緒に公共施設でのサービスを受けている立場にもあります。なので、公共施設の統廃合などはかなり不便になることもありませんが、仕方がないことなのかなとも思います。

僕の回りの若者と話をよくするので、パネリストになるお話をいただいて、適正配置について何度か話をする機会がありました。サークル

などに入っていたら別ですが、若い人は施設を使う機会があまりありません。そういった若者たちは、自分たちが負担を強いられるという思いがあります。それぞれの立場で色々な思いがあると思いますが、世代間で考え方が違うということを知って、お互いのことを考え、尊重しながら歩み寄ることが必要だと思います。

小中学校の一貫教育についてですが、僕が指導者として小中学校に入らせていただいたときに、学校ごとに教育方針の違いとか、先生の雰囲気の違いをよく感じます。基調講演で『中学校の先生は小学校のことができるように小学校の先生はその逆ができるようにならないといけない』というお話がありました。先生方がさらに向上を目指すという部分がありますが、先生方がさらに向上を目指すという部分については、悪いことだとは思いますが、閉じた環境の中では、よいこと、悪いこと、区別はその集団でぶれが生じてくると思います。なので、こういう機会ですらにいろんなことを勉強されて、子どもたちがよりよい教育を受ける機会をつくれることは、本当にいいことだと思います。



○子育て世代代表

加藤亜希さん

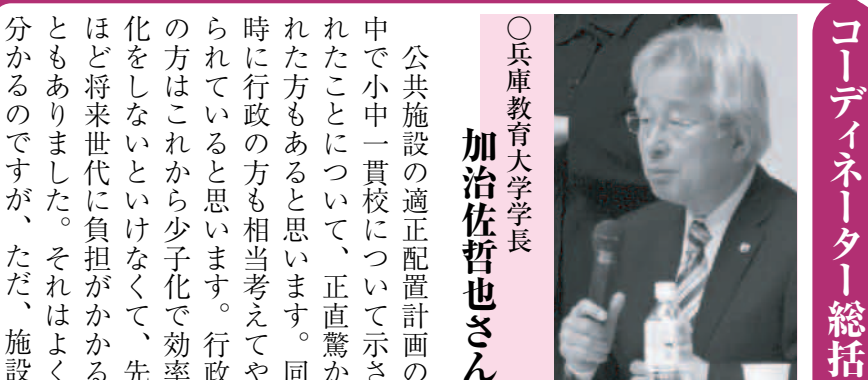
公共施設の適正化について、利用する立場において色々な意見があると思うのですが、わたしとしては、自分が今負担している分より、自分の子どもが将来負担する分が、できるだけ多くならないようにしてほしいとの思いがあります。ですので、今ある施設の維持が難しくなっているのであれば、施設数を減らさなければならぬ必要はあると思いました。

ただ、わたしは今、友人たちと「H.O.O.K」という名前前で、地元をもっと元気にしたい、盛り上げていきたいと活動しているのですが、施設数が減ることによって、加東市が廃れていく、元気がなくなっていくということがないようにならなければならないと思います。

小中一貫教育については、自分に実体験がないという点で不安が先行しています。

それでも、少子化や全国的な流れから、加東市も小中一貫教育になっていくのかなと感じています。現時点で思うことですが、小中一貫校になると校舎が変わり、友達もそのときが変わると思います。子どもがそのときに不安に思ったり、わたし自身も混乱しないように、市の方から説明をいただいて、親自身も心構えをしていかなければならないと思っています。また、年齢ごとに行事を行っていくと説明がありました。小中一貫校になっても運動会があると思います。中学3年の子と小学1年の子ではかなり年齢差がありますが、低学年に合わせ過ぎて中学生の子はつまらない思いをしないかという不安もあります。放課

後の遊びや部活動などで、十分な設備や校庭の広さなどが確保できるのか心配もあります。実は、このフォーラムにパネリストとして出席するお話をいただいたときに、初めて加東市が小中一貫教育を進めていくことを知りました。わたし自身も勉強していかないといけないと思うのですが、わたしと同じように全く知らない親世代もいると思います。親同士、お互いによく内容を知り、情報を共有しながら、子どもたちの学ぶ環境が、よりよいものになっていくように思っています。



○兵庫教育大学学長

加治佐哲也さん

公共施設の適正配置計画の中で小中一貫校について示されたことについて、正直驚かされた方もあると思います。同時に行政の方も相当考えてやられていると思います。行政の方はこれから少子化で効率化をしないと行かなくて、先ほど将来世代に負担がかかることもありましたが、それはよく分かりますが、ただ、施設

が減ってもいいけれど、一番大事な住民の満足度、保護者の学校に対する満足度とかも含めて、そういうことが上がらないといけない。そのためには、個々の施設に対して強い思いがあるとか、みんなと一緒に取り組んで希望が持てるようなことを、少々時間がかかってもやっていくことが必要だと思います。そこが最終的な満足度を高めるために極めて重要であると思っています。

みんなで学びと生活について考えるきっかけになり、みなさんと子どもたちのよりよい学び・よりよい生活につながれば、このフォーラムは成功であったと思います。

公共施設適正配置計画の策定に関するお知らせ

1月14日から2月5日まで、9つの小学校区毎に公共施設適正配置計画案について説明会を開催し、多くの方々にご参加いただきました。市は席上「本年3月に公共施設配置計画を策定し、その内容についての説明会を3月に開催する」としておりましたが、市民説明会やパブリック

コメント等でいただいたご意見・ご要望等をふまえながら、再度、熟慮・熟考することといたします。今後さらにより良い案が熟慮・熟考する中で出た場合や、市民のみなさんや市議会公共施設適正化検討特別委員会から示される代替案のほうを将来を見据えたものと判断でき、

さらに、お金をいくらでもかけられるわけではありませんので、代替案のほうにより合理的・現実的と判断できた場合には、公共施設適正配置計画を見直すこともありえます。

また、小中一貫教育については、進めることを前提としながら、より多くの方々に理解を深めていただくための協議を重ねてまいります。これらのことから、公共施設適正配置計画は、期間を延長し、本年9月までには策定いたします。市民のみなさんには、改めて公共施設適正配置計画についての説明会を開催させていただきます。※開催時期は未定です。